



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

新連載
スタート

知って、理解して、
誰もがHappyな社会へ



盲導犬 基本の「き」

「盲導犬って どんなことを するの?」



盲導犬がどんな仕事をするかご存じですか？写真は盲導犬の基本の仕事、障害物をよける様子。
知っているようで知らない視覚障害や盲導犬の基礎知識を連載コラムでお伝えしていきます(4ページへ)

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

犬にとって快適な居住環境整備へ 神奈川訓練センターの犬舎増改築スタート

1997年5月に開設した神奈川訓練センターは、協会の盲導犬育成の要として機能してきました。施設の老朽化などから、2021年策定の中長期計画の一環として犬舎の増改築を予定していましたが、9月27日に地鎮祭が執り行われ、いよいよ工事がスタートしました。現在の医療・繁殖棟を2階建てに拡充し、犬舎設備を一新させる予定です。犬たちの健

康と快適さに配慮した犬舎の誕生により、盲導犬育成状況のさらなる向上が期待されます。完成予定は2025年2月。およそ18か月に及ぶ工事の間、盲導犬ユーザーをはじめボランティアのみなさんにはご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

日本盲導犬協会の歩み 2023.7.1 ~ 9.30

- 7月12日 第4回常任理事会
- 8月22日 第5回常任理事会
- 9月2日 盲導犬慰霊式
- 9月13日 第6回常任理事会



↑7月25日 東京タクシーセンターで行われたドライバー向け研修で、21人を対象に声かけや誘導の仕方をレクチャーしました



↑7月28日~30日 仙台訓練センターで「ワン!ばくっ子サマースクール」開催。視覚障害児7人とその家族が参加し、ボルダリングにも挑戦

→9月2日 各訓練センターで、昨年亡くなった犬たちをしのぶ慰霊式を行いました。出席者は感謝の気持ちを表して旅立ちを見送りました



↑8月16日 島根パピネスで「盲導犬6歳時コミュニケーション会」開催。ユーザー5人が犬の健康管理などを改めて学び、ボランティアと交流も



●各センター活動報告(7月~9月)

(2023年9月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	0回	1回	1回
	パピーレクチャー	28回	12回	9回
	パピーウォーキング修了式	1回	0回	3回
	ユーザーフォローアップ	44回	28回	20回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	9回	9回	9回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー		4回	0回
	短期リハビリテーション	0回	2回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	168回(136人)	226回(210人)	121回(201人)
	受け入れセミナー	5回	18回	11回
その他(雑誌など)	小・中学生向け実演	6回	14回	16回
	一般向け実演・贈呈式・募金活動等	27回	30回	60回

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	34回
新聞	73回
WEB	261回
その他(雑誌など)	15回

主な放送・掲載

7月6日・7日 読売新聞他1紙 島根あさひ社会復帰促進センターで実施された第14期パピープロジェクト(以下、PP)修了の様子を掲載
 7月19日~8月1日 毎日新聞他7紙 WEB8件 タクシー乗車拒否ゼロを目指した「ドライバー研修」に関しリリース記事掲載
 7月24日・8月1日 毎日新聞他5紙 WEB62件 盲導犬ユーザーや視覚障害者を学ぶ「夏休み子ども向けイベント」に関しリリース記事掲載
 8月11日・27日 河北新報 視覚障害児とその家族を対象に実施した「ワン!ばくっ子サマースクール」の様子を紹介
 8月15日 河北新報 東北大学災害科学国際研究所で開催された防災セミナーで協会ユーザー2人が講師を務めた件を掲載
 8月20日 NHK ラジオ「視覚障害ナビ・ラジオ」訓練士でもある多和田理事が出演
 9月3日・10日・17日・24日 KSB 瀬戸内海放送「with 盲導犬」島根あさひ盲導犬PPに関し、島根あさひ社会復帰促進センター内の様子を紹介
 9月4日 読売新聞 横浜市役所で開催された補助犬イベントに協会ユーザーが参加し、受け入れを呼びかけた件を掲載
 9月5日・6日 静岡新聞他1紙、WEB1件 富士ハーネスでの慰霊式の様子を掲載

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

訓練生によるパピー育成を振り返る 第14期パピープロジェクト修了式

島根あさひ社会復帰促進センター(浜田市)で7月3日、第14期盲導犬パピープロジェクトの修了式が行われました。パピー1頭に対し、訓練生(受刑者)が5~6人の班となって育成に取り組んできましたが、約8か月の委託期間を終えて、4頭のパピーが協会へ引き渡されました。

委託当初、訓練生はみな、足にじゃれて噛みついたり、一人遊びやおい嗅ぎをするパピーたちに翻弄されていました。しかし、修了式が近づくとつれて、パピーを落ち着いて待たせるための工夫や遊び方などを積極的に協会職員に質問し、自分で考え、班のメンバーで話し合いをすることが増えました。最初は右に左に走り回っていたパピーたちも、最後は訓練生の横を落ち着いて歩き、オモチャを使って上手に遊んでいられるようになりました。

修了式で、訓練生は「パピーたちの成長に負けたくないよう、しっかり更生し、社会復帰できるよう明日からも真摯に取り

組みます」と達成感にあふれた表情で話しました。第15期のプロジェクトは11月にスタート予定。訓練生とパピーたちの挑戦がまた始まります。



↑修了式では「どこに行っても自分らしく楽しむんだぞ」「俺たちも頑張るからな」と訓練期に入るパピーたちを優しい笑顔で見送りました

子供たちに「盲導犬」や「視覚障害」を学ぶ機会を 教科書発行者へ向けた説明会を開催

見えない、見えにくい人を含めさまざまな人が共に暮らしやすい社会となるよう、協会では、小学校を訪問して授業を行うなど、未来を担う子供たちの学びに力を入れています。2021年度からは、盲導犬や視覚障害について教科書で取り上げてもらおうと、教科書発行に携わる編集者を対象に説明会を実施しています。昨年度は8社1団体に対して実施し、151人が参加しました。説明会では、盲導犬の基本情報のほか、視覚障害に関すること、障害のとら

え方、盲導犬同伴の人を受け入れるための配慮が社会全体で必要であることなどを解説し、そうした現状を広く伝えることで子供たちが共生社会を考えるきっかけを作りたいと訴えました。

今年度は7月20日に説明会を開催。神奈川訓練センターに、大手教科書出版社である東京書籍の編集者ほか21人を迎えました。熱意を持って参加した若い編集者も多く、今後の展開に期待がかかります。

「みえにくい」を知ってほしい 東京大学と協力してイベントを実施

2019年、東京大学大学院新領域創成科学研究科に「盲導犬歩行学研究室」が発足、以来、協会と連携してさまざまな研究が進められています。7月16日、同大学が提案してSHIBUYA QWS Innovation 協議会主催のイベント「みえにくいとは みえるとは みえないとは」が開催され、協会も協力しました。会場のSHIBUYA QWS(東京都渋谷区)には、関係者や一般の方などが集まり、交流しました。

会場では、講話や研究発表のほか、盲導犬歩行をバーチャルリアリティ(VR)で疑似体験できるシ

ステムを紹介。専用のVRゴーグルを装着し、ハーネスを握ってハンドルの動きを感じながら目的地に到着するまでを体験できるものです。さらに会場内には、VRゴーグルを使って白濁や視野が一部欠けるなどさまざまな見え方を体験するシステムも。参加者からは「見えにくさを理解することで、自分がどんなサポートができるかを考えるきっかけになる」と研究に期待する声が寄せられました。

←盲導犬ユーザーの藤本悠野さん(左)と盲導犬ウクルが協会の山口義之専務理事と共に登壇。全盲でなくても盲導犬を取得可能なこと、趣味やスポーツで精力的に活動する日常などを語りました



富士ハーネスで夏休みイベント開催 「盲導犬ユーザーサポート体験」ほか

視 覚障害や盲導犬について調べたいという声に応えて、富士ハーネスでは毎年、子供向けにさまざまな夏休みのイベントを行っています。今年も7月30日に「夏休み盲導犬教室2023」を開催し、盲導犬の仕事などを紹介。会場の富士ハーネスに約60人、オンライン上に256人が集まって大盛況となりました。8月20日にはオンラインで初イベント「盲導犬もっと知りタイム！」を実施、事前に子供たちから募集した20件の質問に答えました。

週末には「盲導犬ユーザーサポート体験」を開催しました。体験では、たとえばタッチパネルでメニューが注文できない場面を想定。参加者はユーザーに話しかけて必要なサポートを聞き出します。サポートする際にすべてのメニューを読み上げるのか、それとも大まかな種類を伝えたいほうがよいのかは相手によって違って来るからです。適切なサポートの心がけとして、会話を通して相手の希望を知ることの大切さを伝えました。

子供たちが視覚障害や盲導犬を身近に感じ、ユーザーの気持ちを考え、理解するきっかけになるよう、これからも学びの場を提供していきます。



↑アイマスクをして靴下のペアを探します。視覚を使わず、素材や飾りを手で触って探すことができました

知って、理解して、誰もがHappyな社会へ



盲導犬の基本の仕事は3つ

このコーナーでは、視覚障害や盲導犬の基礎知識をお伝えしていきます。目が見える人も見えない人も、お互いを知ることによってみんなが過ごしやすい社会を一緒に実現して

きましょう。

盲導犬の基本の仕事は①角を教える②段差を教える③障害物をよける、この3つです。盲導犬と歩くユーザーは自分の頭の中に目的地までの道順を描き、盲導犬が示す角や段差の情報と照らし合わせ、指示を出し、歩きます。

さて、今回は③の「障害物をよける」です。よけるとは、そのまま歩けば障害物にぶつかりそうなときに盲導犬が自ら状況を判断し、一旦止まるか速度を落として安全なところを通ることです。

障害物にはいろいろなタイプがあります。今号表紙のように道に止まっている自転車などは、盲導犬も認識しやすいでしょう。目の見えない人にとっては、歩いている人だって障害物です。盲導犬は相手の動きを見て、その場でどうよけるかを判断！すいすいとぶつからずに歩きます。基本的に道の左端に寄って歩くよう訓練されているので、無事に障害物をよけたら、また道の左端に戻ります。

よけたら「グッド！」と声かけを。これがうれしくて、楽しくて、盲導犬は障害物をよけるのです。では次回もお楽しみに！



○犬と人が通れる！

×犬だけ通れる

↑犬は通れるけれど、ユーザーと一緒に通る幅がない！ そんなとき、盲導犬は、人と並んで安全に通れる十分な幅のあるところを選んで歩きます



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆様の善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
http://www.intage.co.jp/

キューモニター募集
https://www.cue-monitor.jp/



引退した盲導犬も広報PR犬も愛情いっぱい日々ぎやかに

富士ハーネス PR犬飼育ボランティア **・小谷さん一家** (静岡県富士市)

今回は自動車整備工場を営む飼育犬ボランティア、小谷さん一家を紹介します。1階の工場と2、3階の自宅を歩きながらボランティア生活を送る一家です。

もともと犬好きな娘の有希さんは、かつて協会で犬舎飼育管理員として働いていました。当時、担当したのがイオ。疾患のため、5歳で盲導犬を早期引退していたイオを、のちに飼育ボランティアとして家族で受け入れることを決めます。イオは7歳から6年間を一家と共に暮らし、13歳のとき老衰で亡くなりました。

引退犬のイオはとても芯が強い子でした。高齢になっても一生懸命に歩こうとして。私たちにいいところを見せたかったんだと思います」と有希さんは振り返ります。「ご飯の時間、トイレの時間、全部

→家族で自動車整備工場を営む小谷さん一家。ドナを囲んで中央がお母さんの和子さん、右が娘の有希さん、左が有希さんの夫、圭一さん。ドナは来客の多いこのシヨールームが大のお気に入りです



ちゃんと覚えていて、何も言わなくても自分からその場所に来るんです。一日のサイクルはずっと守っていました。お母さんの和子さんも「そうそう、山道に連れていくとすぐ張り切って、ぐんぐん前に行こうとしてね」。最期までイオらしく生きたと語る和子さんと有希さんの目に涙があふれます。

1年ほど経った2022年春、今度はPR犬ドナを受け入れることに。協会での訓練期1~2歳頃に、そのフレンドリーな性格からPR犬としての適性を認められたドナは、3歳で一家へやってきて現在5歳。お客さんの出入りが多くにぎやかなここでの暮らしが大好きです。初めて会う人にも尻尾を振って全身で喜んだり、人の表情が曇ると心配

そう顔を覗き込んだり。商談に来るお客さんたちもドナのコミュニケーションカに「こないいい子がそばにいれば目の見えない人も

安心ね」と感心しきりです。

小谷さんは、ドナがPR活動中に使う約20個の指示語のうち、ウェイト(待て)など主な7、8語は普段から積極的に使うようにしています。PR活動で良いパフォーマンスができるようにとの配慮です。担当職員は「PR活動でもボランティア家庭でも指示語を同じように使うのは、犬を混乱させないために大切なこと。でも簡単ではありません。ドナを応援しようという小谷さんの思いを感じます」。和子さんは「協会ですっかり育てられてきたおかげで、困ることは何もありませんよ」

さらに「訓練や教育ってね、愛情を伝えることなんです。イオやドナを見ていると(協会やボランティアの人たちが)大切に愛情を持って育ててきたことが良くわかります。そこに居てくれるだけで穏やかな気持ちになるんです。本当にいい子たちですよ」。愛情いっぱい顔ほころばせながら語る小谷さん一家さんです。



↑引退犬イオとお父さんの正利さん。イオは晩年も毎日自宅1階の工場へ。そこで正利さんと触れ合うのが大好きでした



→PR活動中のドナ。表情豊かな振る舞いは、その場にいる人々を和ませます

日本ロービジョン学会
学術総会

in 東京

見えにくい人の早期支援を実現したい

眼科
歩行訓練士 視能訓練士
支援機関

人生の途中で目が見えにくくなり、外出や暮らしに支障をきたすロービジョン。支援機関はあっても、なかなか支援に辿りつけないのが現状です。眼科から支援機関へ、スムーズにつなぐ道を模索するロービジョン学会学術総会の様子を紹介します。



↑視覚リハのひとつである盲導犬歩行を実演。ユーザーが盲導犬からどのような情報を得て歩いているのかを解説しました
←学会会場では協会職員が眼科医ら150人に向けてセミナーを実施

導犬歩行は視覚障害リハビリテーションのひとつ」を講演しました。

古橋氏は、視覚リハに欠かせない歩行訓練士の仕事に触れ、白杖や手引きでの歩行指導からPCの使い方、家事の工夫に至るまで、ロービジョン者をきめ細かく支援する役割であることを解説しました。

堀江職員は、盲導犬歩行も白杖歩行も同行援護も、視覚障害者が移動する際の選択肢であることを解説した上で(右図参照)、盲導犬歩行を選ぶ人には協会から盲導犬歩行を提供し、白杖歩行を選択した人には協会の視覚リハ事業で対応していることを紹介。全国の視覚障害者のニーズに応えるべく、他支援機関との全国的なネットワークを活かして、今後も最適な支援を提供する必要があることを述べました。

「医療と福祉が連携するには、まずお互いの専門分野を知ることが大切です。今回は、歩行訓練士の存在や盲導犬歩行の情報などを多くの参加者に知ってもらえることができ、とてもうれしいです」(堀江職員)

見えない見えにくい人の
オリエンテーション&モビリティー

今自分がどこにいてどこに向かっているのか & 徒歩・車・盲導犬

視覚移動 視覚で確認 知られたいくない 白杖に抵抗ある	白杖歩行 補装具申請 自費購入 歩行訓練を受ける 義務はなし	同行援護 利用 福祉サービス 代読・代筆 事業所と契約 支給量がある	盲導犬歩行 認定制度 貸与規程 法律や義務 犬の健康管理 や世話
---	---	---	--

全国どこにいても 同じ支援を受けられるよう

協会では、大学病院の眼科や地域の眼科クリニックとの連携を各地で行っています。眼科内での相談対応のほか、眼科から依頼を受けて協会職員が

↑協会セミナーでは「見えにくい」を抱えたロービジョン者の主な歩行手段4つを紹介

自宅を訪問し、個々のニーズに合わせて生活訓練を行うなどしています。

堀江職員は「私たち協会は問い合わせをくれた方にはとことん寄り添います。でも、協会だけではまったく足りません。困っている10人のうち1人に会えても9人には会えていないのですから。地域差なくどこでも誰でも必要な支援を受けられる仕組みを作っていきたい」と語ります。

日本盲導犬協会は、視覚障害者の自立と社会参加を促し、全国の眼科、支援機関、関係するすべての人と連携できる団体として社会に貢献していきます。



↑協会の展示ブース。白杖や音声読書器、100円商品を活用した便利グッズなど紹介。ほかの福祉機器展への出展打診もいただきました！
→セミナーに演者として登壇した協会職員と日本歩行訓練士会長の古橋友則氏(右)



学会レポート①

日本ロービジョン学会って?

6月30日から3日間、東京の御茶ノ水で眼科医ら640人が参加して第24回日本ロービジョン学会学術総会(中野泰志会長(慶應義塾大学))が開かれました。

ロービジョン(low vision)とは、病気や事故等で目が見えにくくなり、生活がしづらくなった状態のことです。身体障害者手帳の有無は問いません。日本眼科医会によると「日本には推定164万人の視覚障害者が存在する。このうち、(中略)約145万人程度がロービジョン者」(『日本における視覚障害の社会的コスト』(『日本の眼科』第80巻第6号、日本眼科医会研究班報告2006～2008)より引用)です。

ロービジョンに対する支援はまだ不十分です。不意に訪れる視力や視野の変化にどう対処したら良いかわからず、本人や家族がなかなか適切な支援

を受けられずにいる状況があります。

こうした人々を支えようと、眼科医らが2000年に立ち上げたのが日本ロービジョン学会(石子智士理事長(旭川医科大学医工連携総研講座))で、前述の学術総会が年1回開かれています。現在の会員数は850人。日本盲導犬協会の職員数名も会員になっています。

学会レポート②

眼科と連携し早期支援へ

今回の学術総会のテーマは「ライフステージに応じた早期介入」。なかなか支援に辿りつけない現状を解決すべく、「疾病の早期発見・早期治療、発達段階に応じた早期相談、そして、関係機関の早期連携等を通して、迅速かつ適切なロービジョンケアを実現する方法を探る」(第24回日本ロービジョン学会学術総会HPより引用)というのが目的で、現在の視覚障害リハビリテーション(以下、視覚リハ)の課題に触れ

た内容でした。

協会の視覚リハ事業の現場でも、この課題を実感しています。眼科の段階から適切なロービジョンケアが十分されている人といない人では、その後の生活に大きな違いがあります。どこに住んでいても、誰でも、眼科から福祉につながるができる流れを国内全体で作るのは、非常に大切な取り組みなのです。

学会レポート③

協会企画セミナーも実施

学術総会当日、協会は「目が見えない人・見えにくい人たちへのリハビリテーション」をテーマに、山口義之協会専務理事を座長とした自主企画セミナーを催行しました。共同演者として日本歩行訓練士会の古橋友則会長(特定非営利活動法人六星ウイズ視覚所屬)が「地域で歩行訓練士ができること、やるべきこと」を、堀江職員が「盲

視覚障害リハビリテーション 研究発表大会

in 金沢

働きやすい職場環境整備へ

9月8日から3日間、視覚障害リハビリテーション協会主催の第31回研究発表大会が金沢で行われました。今大会のテーマは「これってインク

ルーシブ?」。"すべてを包み込む"を意味するインクルーシブをテーマに、医療や福祉、教育など多分野から活動成果が発表され、活発な意見交換が行われました。

就労についてのパネルディスカッション「視覚障害者が当たり前で働くための職場の情報アクセシビリティと支援を考える」では、現在協会に勤務している3人の視覚障害当事者の一人、郷明博職員が登壇。協会の取り

組み事例として、視覚障害のある職員も他職員と同様に必要な情報にアクセスできるようにアプリケーションを改良するなど、デジタル環境を整えてきたことを発表しました。

郷職員は「視覚障害者が働く環境の整備には、当事者と職場の双方向の情報交換が欠かせない。課題を乗り越え、就労を後押しするような参考事例がさらに増えていって欲しい」と語りました。

スタートライン Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2023年8月までの共同訓練卒業生

●各ユーザーの紹介項目

- ユーザー名・居住地(盲導犬歴)
- 盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
- GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

2度の引越し支えてくれた盲導犬たちがつなぐバトン

大橋さんは現在、3頭目の盲導犬ダイムと暮らしています。平日は一緒にバスで会社に行き、週末は近所の商店街で買い物を楽しみます。

7歳の頃、病気で目が見えにくくなり、小学校5年生の時に盲学校へ編入した大橋さん。学校には盲導犬ユーザーの先生がいましたが、自分も盲導犬と歩こうとは考えもしませんでした。

長い年月を経て、40歳くらいの頃にパソコン教室で知り合った盲導犬ユーザーとの出会いが、大橋さんの人生を変えます。なんと交差点を自分で渡り、人を追い越しながら歩いていたのです。「いいな！私も風を切って歩きたい」と心を打たれました。

盲導犬を申し込んで3年、ようやく1頭目の盲導犬ジュエルと巡り合います。初めてジュエルと歩いた時、まっすぐ歩けることに感動。「私、今歩いている！」と涙があふれました。

2頭目のホクにはたくさん支えられました。大橋さんはもともと実家のある新潟で治療院をしていましたが、両

↓「もう一本向こうの道に行ってみようか」と新しい発見を楽しむ毎日。コンビニを見つけて「ドア」と指示するとダイムは一目散に入り口へ



親が亡くなったことをきっかけに、6年前にホクと一緒に上京して現在の会社に就職しました。知らない土地、初めての業務、たくさん不安があったものの「ホクが心の支えになった。ホクは自分を強くしてくれた」と振り返ります。引退が決まったホクと過ごす最後の夜は「元気でいてね。新しい家族にいっぱい甘えてね」とギューッとハグをしました。

今年6月の共同訓練で3頭目のダイムと顔を合わせます。最初は大橋さんの股をくぐって、でんぐり返しをして、大パニックのダイムに「初日だからそうなるよね」と穏やかに見守る大橋さん。

訓練4日目の休憩時間のことです。ダイムにシット(座れ)、ウェイト(待て)をさせて、大橋さんは離れたところへ。遠くから見つめるダイムを「カム(来い)！」と呼ぶと、全速力で走ってきて大橋さんの周りを回り、左側にきちんと着いて止まりました。ダイムの頬をたくさんなでて「グーッ！」、ダイムはしっぽをブンブン振ります。おまけに、動きすぎて方向がわからず困っていた大橋さんが「チェア！」と言うと、ダイムはちゃんと椅子まで誘導してくれました。こんなにスムーズに

意思疎通ができたのは初めてのことで、お互いの気持ちが一歩近づいた瞬間でした。大橋さんはダイムとの共同訓練が始まる直前に今の住居に引っ越ししました。前の引っ越しの時はホクが支えてくれて、また新しい環境での生活、次はダイムが大橋さんを支える番です。「ホクからダイムへのバトンタッチだね」とうれしそうに話す大橋さん。ダイムの名前は漢字で「大夢」と書きます。「倉敷にいる友達、九州にいる友達、いろいろな人に会いに行きたい」。大橋さんとダイムの大きな夢の始まりです。

大橋 ちあきさん 東京都杉並区(3頭目)
ダイム(♂)LR

①2023.6.12～6.23 ②若林 聡さん



↑家では「ダウン(伏せ)」や「シット(座れ)」でためにコミュニケーションを取ります。ハーネスを着けていない時にたくさん関わるのが大切です

富士ハーネス

中野 真由美さん
愛知県江南市(1頭目)

アリア(♀)LR
①2023.5.29～6.25
②松本 奈美さん



はじめての共同訓練では、アリアとのコミュニケーションの取り方が分からず、落ち込むこともありましたが、予定通り排泄が上手だった時などはとてもうれしくて、アリアと共に成長できた訓練だった

と実感しています。今ではアリアの性格や1日のルーティンが少しずつ分かってきました。今後の目標はアリアと一緒にのお泊り旅行。目標実現に向けて、アリアの排泄リズムを安定させるなど、一緒に楽しみながら特訓中です。

トミーは椅子を教えるのがとても上手。家では座面に顎をのせて、私が座るのを待っています。ボール遊びでは、私が拾えないことが分かると、うまくボールをつかむまで何度も拾って手にのせてくれる優しいトミー。でも、ロープの引っぱりっこや、体いっぱい甘えてくる時は、少々手加減が欲しいところです。涼しくなってきたら、どこに行こうかな？出かけるのが楽しみです。学校訪問やイベントなども一緒に楽しみたいと思います。



碓谷 純子さん 横浜市(3頭目)
トミー(♂)LR

①2023.5.29～6.9 ②金安 正記さん

仙台訓練センター

木村 千栄美さん
福島県会津若松市(3頭目)

ドン(♂)LR
①2023.5.30～6.12
②東 晴美さん



私たちは鶴ヶ城を毎日歩いています。ドンの動きはハーネスからよく伝わり、とっても歩きやすいです。覚えやすい名前の「ドン」は、すでにアイドルのよう。ドンと楽しく歩けること、それを地域のみなさまがご理解くださることにとても感謝しています。ドンも

会津での暮らしを気に入っているといいな～。涼しくなったら出かけたいところがたくさん。マラソン仲間とのトレーニングにも出かけたいです。ドンと私はスタートしたばかり！

おっとりとした性格のスランですが、指示への反応は早く頼もしいです。「グッド」に大喜びで、もっと！とお手をするようなしぐさがかわいいです。外出先や職場や自宅、どこでもグッドなスランの良さを8年間維持して、良いペアになっていきたいです。仙台訓練センターでの慰霊式はプチ遠出になりました。スランはまわりの盲導犬たちにそわそわしながらも、しっかり待機して参列できました。これからも行事や旅行を一緒に楽しみたいですよ。



伊澤 恵さん
山形県上市市(3頭目)

スラン(♀)LR
①2023.6.20～7.7
②大城 惟克さん

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し
ます

京王電鉄が広げる支援の輪 駅での声かけや誘導方法を動画で紹介



◀鉄道営業部 営業課 課長補佐 上山純之さん(右)と主任事務員 高橋伯明さん(左)。駅係員はじめすべての職員に視覚障害に関する理解を広めようと意欲的です

解促進セミナーを開催してきました。盲導犬同伴者や白杖使用者に対する安全できめ細かな接遇スキルを身に付けてもらうため、協会も協力しています。

- コロナ禍をきっかけに動画を作成

こうして支援や理解の輪を広げる中でコロナ禍が訪れました。セミナーを開くのが難しい状況で考え出したのが、動画の

作成でした。

「弊社では『声かけ・サポート』運動で社員だけでなく鉄道をご利用になるお客様にも協力を呼びかけたり、自治体にご協力いただき、一般の方に向けたボランティア講習会を開催



↑動画「目の見えない方、見えにくい方に対する駅構内での声かけ・誘導方法」では視覚障害者への声掛けやサポートについて、わかりやすく紹介



- 誰もが利用しやすい 鉄道を目指して

世界屈指の乗降客数を誇る東京都心の新宿駅と東京西端の高尾山をつなぐ京王線、若者に人気の渋谷と吉祥寺を結ぶ井の頭線など6路線を有する鉄道会社、京王電鉄。同社では、誰もが安心して利用できる鉄道を目指し、すべての駅係員と乗務員がサービス介助士の資格を取得し、視覚障害支援でもさまざまな取り組みを行っています。

取り組みの一つが、駅などで困っている人に積極的に声かけを行う「声かけ・サポート」運動。2011年から全国の交通事業者に広がっている運動です。また、2016年の障害者差別解消法の施行を受け、社員に向けた理

するなどしていました。コロナ禍でお客様との距離を取らなければならなくなった際、我々にできることは何だろうか？と考えた結果、駅構内での声かけや誘導方法を紹介した動画を作成することにしました(鉄道営業部の上山純之さん)

2021年に京王電鉄と協会が協力して作り上げた動画は、「声かけ・サポート」運動の一環としてYouTubeで公開中。「一人でも多くのみなさまに見ていただき、共に手と手を取り合い、バリアフリーな世の中を作っていく」という京王電鉄の願いが込められています。

- 助け合いの未来へ向けて 大切なのは「最初の一步」

コロナ禍が明けた今、京王電鉄では社員向け理解促進セミナーを復活させ、動画を用いたeラーニングをグループ企業に向けて行うなど支援の輪をさらに広げています。

上山さんは「どう声かけをすればいいのか、どう対応すればいいのかを知ることで、盲導犬ユーザーや白杖使用者の方々に対し『自ら進んで動けるようになった』という声が、社員からあがっています」と最初の一步の大切さを語ります。「すべてのお客様に安心してご利用いただける鉄道を目指し、これからも社員一丸となってこうした運動を継続していきます」

協会が募金活動を行う際には開催場所を無償提供するなど、多種多様な支援を展開している京王電鉄。助け合いの心を乗せて、今日も東京の街を走り続けています。

生まれました

2023.8.13 誕生



オス4頭
メス3頭
父犬キューイ(LR)×
母犬ハイジ(LR)

2023.8.28 誕生



オス6頭
メス3頭
父犬クルト(LR)×
母犬アレッタ(LR)

みなさんに 支えられて

6月11日～9月10日

犬種記号
LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

2023.6.24 誕生



オス1頭
父犬マル(LR)×
母犬ユラ(LR)

※凍結精液を使用している人工授精

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ホク♀	大橋 ちあきさん	関根 宇洋さん	2023.6.12
ラスク♂	須ヶ間 妙子さん	佐伯 晶子さん	2023.6.18
ハルモ♀	伊澤 恵さん	星 芳則さん	2023.6.20
エリン♀	三宅 保子さん	上廣 耕治さん	2023.6.30
ベリンダ♀	飯山 リサさん	-	2023.7.10
オラフ♂	小野瀬 淑さん	調整中	2023.8.3
テミス♀	穂刈 頭一さん	穂刈 明子さん	2023.8.18
アイム♂	名取 進さん	-	2023.8.22

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
ブーケ♀	-	上原 正三さん	2023.6.11
ユアロ♂	相吉 堯春さん	山本 佳孝さん	2023.6.30
レノ♂	岩下 秀明さん	佐々木 ひさ子さん	2023.7.24
ラナ♀	松本 恵理子さん	滝澤 厚さん	2023.7.26
チェロ♀	山口 佳信さん	神作 千鶴子さん	2023.7.28
オパール♀	金子 聡さん	橘 浩子さん	2023.8.8
ロディ♂	河野 美知子さん	河野 節郎さん	2023.8.12
ナツ♀	須ヶ間 妙子さん	間仁田 学さん	2023.8.14
ジゼル♀	岡田 すみ子さん	梶原 幸子さん	2023.8.24
メロ♀	-	三角 勉さん	2023.9.7

委託しました

父犬ウィングダム(LR)×母犬エステイ(LR)	父犬エビス(北海道盲)(LR)×母犬エヴァ(北海道盲)(LR)
メブキ♂ 田村 賢嗣さん	オルガ♀ 島村 一秋さん
父犬キューイ(LR)×母犬ヴィセ(LR)	オクター♀ 茶珍 啓一朗さん
リッカ♀ 木崎 久美さん	父犬ルバーブ(LR)×母犬ベルナ(LR)
ラウル♂ 伊藤 英子さん	パンジー♀ 金谷 英司さん
ライズ♂ 塚本 竜美さん	ポポ♀ 佐藤 文俊さん
ルネ♂ 村田 正博さん	パルム♂ 望月 朋子さん
ラム♀ 石黒 雅彦さん	ポピー♀ 保科 朗子さん
ラピス♀ 鷺澤 裕さん	パーシャ♂ 水野 智秋さん
父犬マル(LR)×母犬ユラ(LR)	ピクシー♂ 三浦 智香子さん
スカイ♂ 梅田 章さん	ポエム♀ 橋國 智子さん

盲導犬育成状況

合計頭数...717頭(2023年10月4日現在)

委託前パピー	13頭	繁殖犬	43頭
パピー	101頭	PR犬	15頭
訓練犬	72頭	引退犬	171頭
盲導犬	237頭	繁殖引退犬	65頭

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

いつも『盲導犬くらぶ』をお送りいただきありがとうございます。スタートラインのコーナーで盲導犬とユーザーの方が明るく元気に外出している姿を拝見すると、とてもうれしく幸せな気持ちになります。もっともっと盲導犬との外出を楽しんでいたきたいと思いますが、ユーザーの方と盲導犬が店舗や医療機関で受け入れを拒否されたら、どうなるのでしょうか？ぜひ自分のことのように想像してみてください。悲しく、苦しく感じられることと想像いたします。受け入れ拒否にあったというユーザーがゼロになりますよう、願ってやみません。

仙台市 T.Fさんより

●『盲導犬くらぶ』の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先

公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

編集室より

5月1日から7月20日の約3か月間、国際部の盲導犬訓練士である西田が、アメリカのニューヨーク州にある盲導犬育成団体フリーダムガイドドッグス（以下、フリーダム）へ研修に行ってきました。フリーダムとの関係は互いの事業にとって重要であり、協会は約20年にわたってフリーダムから繁殖犬や訓練犬を導入しています。研修では共同訓練や犬の訓練、犬舎やパピーに関する業務、ユーザーのフォローアップ、視覚障害児スポーツキャンプなど、さまざまな現場を学んできました。現地の様子をご紹介します。



5月1日 ←自然に囲まれたフリーダム訓練センター。赤い屋根の建物は犬舎。犬用遊具や屋根のあるフリーラン場などもある。開放感のある敷地に職員はわずか5名ほど



6月27日 ↑ラブラドル・レトリバーのほか、プービー・デフランダーズ、ブードル、スムース・コリーなど、日本ではあまり見かけない犬種も盲導犬の候補に(中央が西田訓練士)



5月3日

➤共同訓練に同行。日本と違い、アメリカではほぼ歩道が完備されているのでユーザーは歩道の真ん中を歩く。左端に寄って歩かなくて良いので「角を教える」という盲導犬の仕事がない！

次代を担う若い職員が海外研修で得た知見を活かし、今後の視覚障害者福祉の向上につなげていきます。

一日でも早く、一頭でも多く
盲導犬普及に皆様のあたたかいご支援を。

JACCS



日本盲導犬
協会カード
GUIDE DOG SUPPORT CARD
お申込はこちら▶



カードのご利用で盲導犬の普及に貢献できます！

ご入会で
1,000円を寄付

カードご利用で
0.50%を寄付

年会費のなかから
500円を寄付

ラブリポイント
常時2倍



無理なく、続けられる

ナチュラルプラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラルプラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL http://www.naturally-plus.com



お客様からご注文いただいた商品1袋につき1円を
いちえん あいききん
『一縁のeye基金』として積み立て、
その一部を盲導犬育成支援に活用しています。



あなたから始まる次代への健康物語

わかさ生活

WAKASA